

ハウステンボス歌劇団

取引店：十八親和銀行 佐世保本店営業部

株式会社 SIH代表取締役

ハウステンボス歌劇団代表／ハウステンボス歌劇学院理事

さか もと

かず こ

坂本 和子 氏

九州を代表する大型テーマパークで
唯一無二の舞台を披露する歌劇団が
世界へ魅力を発信開始



四季折々の花が咲き誇り、夜にはイルミネーションに包まれ昼とは異なる景色が見どころのハウステンボス。その名称はオランダ語で「森の家」を意味し、オランダに実在する建造物を模して再現された建物の数々とレンガの石畳や運河などの景観が大きな魅力。1992年の開業から30年以上が経過し、建物と自然が織りなす街並みには趣があります。

そして、日本で唯一、テーマパーク所属の歌劇団として公演を続けている「ハウステンボス歌劇団」もこのテーマパークの特色。2013年の設立以来、総合プロデューサーとして歌劇団を支えてきた坂本和子氏にこれまでの活動と今後の展望についてお話を伺いました。



日本固有の文化を テーマパークに持ち込め

1992年、大村湾の北端に開園したハウステンボスは、オランダの街並みを細部まで再現し、ヨーロッパの雰囲気伝える魅力的な景観から、当初は大勢の来場者でにぎわいましたが、国内各地で見られたテーマパークブームの終焉もあつて、2000年代になると入場者数が減少。経営状態が悪化の一途をたどった先に2010年から大手旅行会社エイチ・アイ・エスが経営再建の舵を握ることになりました。2022年に現経営体制に移る

まで、あらゆるイベントを仕掛け注目を集めはじめていました。その当時、大阪で複数の事業を営んでいた関係で、宝塚歌劇団関係者や大阪芸術大学教授を始めとする文化人や識者との交流があり、舞台公演のプロデュースも経験していた私に、ハウステンボスの経営を引き継いだエイチ・アイ・エスの澤田秀雄さんから協力依頼の連絡があつたのは、今思えば、必然といえるご縁だったかもしれません。

当時社長であつた澤田さんは「ハウステンボスをテーマパークとして再生したいというより、あの場所をひとつの観光都市に変えたい」と、私に構想を明かしてくれました。世界的に有名な観光都市には、その土地特有の「文化」が根付いています。「日本の

テーマパークを魅力的な発信源に変えるには、何かしらの文化を持ち込む必要がある」ということになり、「ハウステンボスの雰囲気」にふさわしいものは何か」と、議論を重ねた末にたどり着いた結論が「歌劇団」でした。ミュージカルやオペラは海外発祥のものであるのに対し、男性の役も女性が演じる歌劇は、日本固有の歴史と形式をもつ文化です。海外の方たちが日本の歌劇文化に独特の魅力を感じている様子も間近で見えていたので、すぐに準備に取りかかりました。この決断は今のハウステンボスが、周辺地域が持つ文化や歴史など豊富な観光資源にも目を向けている中で間違っていないかと思っています。

苦難続きの活動当初と トップスターの揺るぎない覚悟

すでに活動をしている歌劇団を誘致する選択肢もありましたが、ハウステンボス独自の魅力的な集団をつくりあげるには、一から人集めをするほうがよいと判断しました。とはいえ、演者が素人ばかりの劇団では、お客さまの心に深く届く歌劇にはなりません。そこで、伝手^{つて}のあつた宝塚歌劇団やOSK日本歌劇団の出身者を中心に据え、あとはオーディションで人材を集めてハウステンボス歌劇団を2013年に結成しました。

公演がスタートした頃は、いろいろと思いがけない事態に見舞われ、劇団にとっては苦難の連続でした。たとえば、どの歌劇団にも必ずある「衣装部」がなかった点。衣装を製作する人も時間もないなか、知り合いに連絡して別の劇団の衣装を借りることもあつたのですが、演者が身につけてみるとサイズがまったく合わない、というトラブルがよく起きていました。ある時は主役の衣装が焼失してしまふハプニングに見舞われ、劇団生が力を合わせ、何とか窮地を乗り越えたこともありました。

また、公演を披露する劇場も、当初はパイプ椅子を並べた仮設テントが始まりでした。当時、九州では歌劇の存在が身近ではなかったこともあり、小規模なステージからの出発でした。だからこそ、新鮮で見る人をすぐに魅了してファンを増やしていくことができたのです。数か月後に新たな常設劇場



歌劇団の魅力と未来の発展を語る坂本代表



1



2



4



3

1.舞台を彩る男役トップスター／2.ハウステンボス歌劇学院第11期生／3.ハウステンボス歌劇大劇場外観／4.ヨーロッパのオペラハウスを思わせる圧倒的な音響と照明を兼ね備えた華やかな大ホール

（現在の「ミューズホール」）での公演をスタートさせましたが、それまでの、冷暖房設備のないテント、照明機材が一つしか使えない場での公演には、劇団生に対して申し訳ない気持ちで募るばかりでした。私は、たまたま皆の前で頭を下げ、初舞台にふさわしい場を用意できなかった制作サイドの非を心から詫言いました。

すると、宝塚出身で創立中心メンバー、現トップスターの「優雅」が私に向かって、毅然と言ったのです。「どうか謝らないでください。明かりが足りなければその分、私たちが輝けばいいのですから」と。あの力強い言葉は、今も鮮明に心に残っています。「この先どんなことがあっても、日々の舞台のためにひたむきな努力をしてくれている劇団生

たちを守り抜かなければならない」と、私が心の内で誓ったのもこの時でした。

ファンとの距離の近さで 徐々に人気を獲得

そうした時期を経て、少しずつファンと呼べるお客さまが増えていき、劇団創立

から10年目の2023年に新劇場となる「ハウステンボス歌劇大劇場」での公演をスタートさせるに至りました。約1,000席の劇場では毎日2公演（2演目）の上演を続けています。それ以外にも、野外ステージでのミニショーやイベント、さらに園内ホテルでのティーパーティー、ディナーショーを定期的に開催中です。

ハウステンボス歌劇団には、「シャイン（輝）」「フラワー（華）」「ハート（凜）」「ウィング（翔）」「ハピネス（奏）」の5チームに、他チームとの兼任混合で構成される「ブルーローズ（雅）」があり、ますが、時にチームの垣根を越えた



5



7

6

5.レッスン後の記念撮影／6.7.舞踊の他、和楽器やメイク・食育も学ぶ

特別出演やスペシャルゲスト、トップスターの競演が見られるのが当歌劇団の魅力となっています。

また、毎公演終了後の写真撮影会など、ファンとの距離が近いのもハウステンボス歌劇団の特長です。劇団生が舞台用メイクを施した状態で楽屋と劇場の間を移動する光景がよく見られるのは、当劇団ならではのと言えるかもしれません。

素晴らしい舞台人は 素晴らしい人間であれ

当歌劇団では劇団創設の翌年に、劇団併設の養成所である「ハウステンボス歌劇学院」を設置し、独自の人材育成を始めました。アマチュアを一から指導するなかで、歌劇団の将来を担って立てる、良き舞台人を育てるためです。

歌劇学院では、1年間にわたって、演劇、音楽、日舞、洋舞、ヘアメイクや衣装を始めとする舞台専門知識はもちろん、一般教養や礼儀作法といった社会学などについても、しっかりと学ぶことになります。これは、当歌劇団の「素晴らしい舞台人は、素晴らしい人間であれ」という理念に基づいています。

学院の卒業生は舞台実習生となり1年間レッスンを続けながら、選抜による舞台出演のチャンスをつかむために各自が自らを磨く日々を送ります。そして3年目によりやく正式の劇団生となる日が訪れます。

本年3月の歌劇学院卒業式では、13名の卒業生が夢への新たな一歩を踏み出しました。そのなかには「実力を高めて、どんなジャンルの舞台でも輝けるような娘役になりたい」あるいは「ずっと大好きで夢をもらった

地域と共生するFFG

歌劇団なので、これからは私が夢を届けたい」と語る者もいました。

これまで私は学院生と劇団生に、「夢にまっすぐ。舞台にまっすぐ。お客さまのお心にまっすぐ」と教え、スローガンとして唱和させてきました。夢に向かって瞳を輝かせている彼女たちを見るたびに、ステージに対する一人ひとりの思いの強さこそ、ハウステンボス歌劇団の原動力なのだと、実感します。

本拠地での活動と並行して 全国展開、そして海外進出へ

これまでにハウステンボス歌劇団は、本拠地の園内での公演のほかに、県内外の外部公演にも積極的に出演を行うなかで、日本各地にファンの輪を拡げてきました。次のステップとして、今後は首都圏あるいは大都市圏に常設の劇場を設け、多拠点活動へ舵を進めていく予定です。

さらには、タイやカンボジアなど、アジアを中心に海外での公演実績も積み上げてきましたので、海外戦略も練っているところです。具体的には、アジア進出の第一弾として、実力と人気を兼ね備えた男役数名によるユニットを結成します。歌劇の魅力に加えて、世界を熱狂させる、アニメ、ゲーム、

ボーカロイド、VTuberなどの「JAPANポップカルチャー」や、サムライやニンジャに代表される日本文化の要素を盛り込み、歌劇をさらに進化させた「Live歌劇」を構想中です。アジアの方々にハウステンボス歌劇団の魅力をもっと広く、そして深く知っていただきたいと思っています。

最後になりますが、当歌劇団の原点は、あくまでもここハウステンボスにあります。佐世保から、ハウステンボスという町から、誇りをもって私たちの文化を発信していきたい。ずっと応援してください。

勢の方たちのために、ここを巣立っていった仲間がまた私たちのもとを訪れてくれる時のために。これからも本拠地での活動を大事にしなごら、前へ前へと進んでいきます。



談笑するトップスターたちと山川頭取

ハウステンボス歌劇団

■所在地：長崎県佐世保市
ハウステンボス町

ホームページは
こちら



■設立：2013年

■事業内容：ハウステンボス歌劇大劇場での公演、園内でのイベント・ミニレビューショー、オフィシャルホテル「ホテルヨーロッパ」でのティーパーティー・ディナーショー、国内外の外部施設での公演・イベント出演など



ハウステンボス歌劇大劇場入口